

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770300279		
法人名	社会福祉法人敬世会		
事業所名	グループホームやすらぎの家きやま		
所在地	香川県坂出市川津町2001番地1		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町受理日	平成21年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770300279&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770300279&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年7月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と一緒にメニューを考え、日曜日には料理づくりをしている。畑の草抜きや花づくりなど、昔を思い出しながら職員とゆっくりとした時間を過しており、今年は大きい玉ねぎをみんなで収穫することができた。また、フェンスのバラも、近所の方のお力で、草抜きや剪定などをしに来ていただき、たくさんの花が咲いた。年4回の家族会をしており、大勢の家族の出席をいただき、楽しい時間を過ごすことができている。また、家族会には地域のボランティアの方が朝早くから食事づくりなどをしていただいたり、地域の踊りの会の方や太鼓の会の方などが訪問に来ていただいている。ホーム内の活性化のために、グループ内のデイケアを活用してリハビリや気分転換を図ったり、時々、喫茶店にケーキセットを食べに行き、小遣いから自分でお金を支払いしてもらっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

近所の方が、バラの剪定や野菜の苗を提供してくれたり、野菜をいただいたりや家庭で暮らすのと同じように、地域とのつながりが取れていることが感じとれる。運営推進会議や七夕まつりにも積極的に参加していただき、ホームの運営に協力的であり、地域で暮らすための支援づくりが実践されている。防災にも積極的に取り組んでおり、災害時の避難訓練や避難場所の確保、食料・非常時の持ち出しなども周到に準備されている。利用者の生活は、家庭的で明るく、ホールには落ち着けるスペースも用意されている。また、ホールからは庭が見え、野菜や花を見ることができ、犬を飼っており、癒し効果や番犬の役割もある。その庭にはホールからすぐに出ることができるようスロープが付いており、自由に外にも出ることができる。外出も本人の思いをかええることができるよう支援ができており、家庭的な支援を感じる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の目標をたて、日々努力をしている。努力目標に対しては、職員で評価して各職員の名札の裏に記載している。	グループホーム設立時からの目標があり、ホームの玄関と職員のネームの裏に表示されており、常時意識付けがされている。職員も理念に基づいた支援がされており、「家で暮らすように」、「以前の生活を継続できるように」利用者の権利や尊厳を損なわない支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの六地藏の参拝や、近所の方がホームのバラの剪定に来てくださったり、畑に野菜と一緒に植えてくださるなど、日常的なお付き合いができています。	七夕祭りでは、夕方から地域の子どもや近隣の方々を招待し、そうめんや歌など、食事やレクリエーションを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香川県キャラバン・メイト養成研修会へ積極的に参加し、地域の高齢者の暮らしに役立ちたいと考えている。また希望があれば研修、見学の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、市の方や利用者家族、地域の方にサービスへの取り組み状況を報告している。また、意見などをいただき、サービス向上に活かしている。	2か月に一度、運営推進会議を行っている。行政、地域、施設関係者だけではなく、利用者、家族も参加している。家族も1年任期で、今まで複数の家族が、運営推進会議に参加している。行事の案内や報告などのほか、意見の交換も積極的にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があれば、市の担当者に質問・相談をし、連携を取っている。また、介護相談員の施設訪問を毎月受け、情報交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	市のケアマネジャーが定期的に訪問しており、市からの報告にはコメントを記載している。困りごとなどの時には地域包括支援センターへ電話で質問をしている。昨年より、市にあるグループホームで協議会をつくり、3か月に一度集まり、取り組み方法や困りごとなどを忌憚なく話す機会を設けている。	

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアの実施をしているが、利用者の安全のために必要な場合は、家族に説明し、同意を得て実施することもある。	マニュアルを作成している。身体拘束を行う場合の様式も揃えられている。開所から現在まで身体拘束を行ったことはない。ケアハウスと合同の委員会に参加しており、ホーム独自にも年1回勉強会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法などの研修に参加したり、勉強会を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	県内の福祉団体が主催する成年後見制度活用講座などに参加し、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を図って決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情等を入れる箱を設置し、いつでも意見・要望が出せるようになっている。また、その意見に対して、十分に話し合い、苦情解決に努め、運営に反映させている。	玄関に苦情受付箱、メモ、筆記用具が設置されているが、意見はない。意見や要望などは直接話され、その都度記録に残している。記録には苦情の概要、反省点、対応が記載されており、要望に迅速に対応していることがわかる。	要望、意見は記載して残しており、概要や対応なども書かれている。今後、その後の様子を書くようにすれば、苦情対応になるだけではなく、利用者の生活の質をより高めることが期待できる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月合同ミーティングを持ち、意見や提案を聞く機会や場面を設け、反映できるように努めている。	合同ミーティングで、月1回話し合いをしている。職員は要望や意見を言うことができ、管理者も指導や助言が忌憚なく話し合っている。職員同士の交流も行われており、職員旅行なども企画されている。休暇も希望休が取れるようになっており、連休での休暇も可能である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、個々の意見を聞きながら、向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修年間計画を立案したり、グループ内外の研修参加を勧めている。また、段階的に認知症介護実践者研修やリーダー研修などの受講を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや県内の福祉団体が主催する相互訪問等の取り組みに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、求めていることなどをいつでも聴き、安心できる生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に、家族から希望や不安なことなどを聴いている。また、面会時には近況報告をしたり、困っていることや要望などを聴き、信頼関係を築いていけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を十分に聴きながら、医師、訪問看護師、ケアマネジャーなどと相談し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理づくりや畑づくりを一緒に行ったり、若い頃の苦労を振り返り、人生の先輩として多くのことを学んでいる。そして暮らしの中で支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や、家族会などで本人の変化や嬉しい出来事などを話したり、家族の本人への思いなどを傾聴して、共に本人を支えあう関係づくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように、馴染みの美容院や店、親戚や友人との交流の機会を十分持ちながら暮らしている。	利用者のユニット間の変更はなく、職員の変更もほとんどない。利用を希望される方には入居されるまでに何度か訪問してもらい、慣れていただくようにしている。関係法人の行事に参加したり、地域の方が来ている喫茶にも招待してもらい交流している。市内の喫茶や美術館、菖蒲祭り、本屋など地域に出かける機会も頻繁につくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、気の合う人と入浴したり、仲の良い人と一緒に過ごしてもらうなど、関わり合いの場所づくりをして、一人ひとりが孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった後も家族が立ち寄ってくれたり、職員と思い出話をしたり、慰労の言葉をかけてくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を本人より聞きながら把握に努め、職員間で話し合っ検討し、本人の意向を尊重し、生活支援の充実を図るように努力している。	アセスメントはセンター方式を利用しており、本人の思いを重視したアセスメントを行っている。日々の記録もフォーカスチャータリング(記録方式の一つ)で記録しており、行動を記載し、その対応をしたやりとりの会話を示すことで本人の思いや行動の意味を理解することができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報、生活歴などを基に、センター方式によるアセスメントを行い、課題を明らかにし、本人の望む暮らし方が提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、変化を見逃すことがないように、利用者をよく見守り、現状を把握し、本人が暮らしやすいよう支援している。		

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、ユニットごとのミーティングで意見やアイデアを出したりしている。また、家族や利用しているデイケアのスタッフとも話し合いの場を持ち、より良い生活ができるように介護計画を作成している。	フォーカスチャータリング(記録方式の一つ)による経過記録とケアプランが連動するようになっている。職員は担当利用者の居室の管理や家族とのやりとり、日々の支援での気づきなどを報告し、利用者本人、家族、多職種の職員が話し合って介護計画の立案を行っている。3か月に一度、モニタリングを行い、利用者の現状に沿った介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング(記録方式の一つ)を利用し、個別の記録をしている。日々の様子や関わり、ケアの実践を職員間で情報共有し、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、柔軟な支援をしている。家族が宿泊したい時は、居室に本人と家族が泊まることも支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の訪問により、会話を楽しまれたり、地域行事に参加したりしている。このように、地域の方の力を借りながら、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望にそって、適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医以外にも利用者、家族の希望にそった医療を選択することができる。永井整形病院以外の通院は、基本的に家族が行っている。家族が送迎できないときにはホームで対応するようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来る際、日常の関わりの中で情報や気づきを伝えて相談し、健康管理や医療連携支援体制ができていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と協力関係を結んでおり、常に情報交換は行っている。また、早期退院時にも、必要に応じて往診や訪問看護が受けられるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や地域のかかりつけ医と繰り返し話し合い、職員間でも何度もミーティングを行い、方針を共有している。	重度化や終末期における方針を示す指針は準備されており、入居時に意向調査を行っている。また、体調を鑑みて適切な時期に再度、指針を基に意向調査を行なっている。ホームの理念においても「たとえ認知症の状態が重度化しても・・・」とあり、常に話し合いを行いながら情報を共有し、支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、全ての職員と訪問看護師でミーティングをして、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災や地震など避難訓練の具体的な実施により、災害対策に備えている。また、昼夜問わず、利用者が避難できる方法を身につけるとともに、地域の人と顔なじみになり協力を得られるように働きかけている。	年2回訓練を実施している。春には通報避難訓練、秋には消火訓練、設備点検などを行い、消防署に報告している。地震に備え地盤の確認を行い、避難場所についても法人内に確保されている。利用者個人の持ち出し袋があり、ホームとしても駐車場に備蓄食料、備品が整備されている。	災害訓練の際には、消防署に来ていただいたり、地域の方にも参加してもらうことが望まれる。また、地域の消防団とも交流をもち地域の交流を深め、ホームの災害時には協力が得られることを期待する。備蓄物の貯蓄場所については、職員全員の意識づけがされることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。また、随時、職員間で注意やフォロー、指導を行っている。	プライバシー保護の書類は、ホームの壁に提示されている。利用者の方への言葉かけは丁寧で、問題行動のある利用者に対してもプライドに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が思いや希望を表しやすいように、正面から視線を合わせて対話している。話しやすい環境、関係づくりを心がけている。		

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムに合わせて、その人らしく暮らせるように、24時間シートを活用して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好きな洋服や髪型で、一人ひとりの個性にそったおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが持っている力を活かして、利用者と職員が協力して料理づくりをしている。特に日曜日は、利用者メニューを考え、買い物も一緒に行き、好みに合った食事づくりをしている。	月曜日から土曜日までは、法人内で一括して、カロリー計算をし、バランスに心がけたメニューを提供している。ご飯、味噌汁はホームで作り家庭的な支援を心がけている。日曜日はホームでメニューを考え、買い物に行き、食事を作っている。食器や箸、茶碗、湯のみは個々に用意されており、家庭的な雰囲気を感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や飲み物の好みを把握して支援している。食事量が少なくなった時は、個人フローシートに記入し、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必ず行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのトイレサインを把握している。そして、排泄表を作成してパターンを把握し、支援している。	排泄のパターン表を作成している。排尿、排便状況だけではなく、薬の服用もわかるようにしている。自立している方は排泄パターンの管理はしていないが、便意や排便確認は行っている。失禁時にはトイレや浴室などで交換をし、プライバシーにも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックリストやフローシートを作成し、水分摂取量などを確認しながら、体操や散歩など体を動かすように働きかけている。		

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に、日中に入浴を行っているが、入浴時間の長さや回数は一人ひとり希望に合わせてるように努力している。また、気の合った人と一緒に入浴を楽しむ人もいる。	毎日入浴を行っており、入浴拒否される方でも週3回は入るようにしている。拒否された場合には時間を空けたり、声かけ、介助者を変えてみるなど努力されている。夜間入浴の希望はないが希望者がいれば対応はできる。重度の方には2人介助でシャワー椅子を使い、入浴している。冬場は足浴などを行うなど、決め細やかな対応がみられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に、体を動かすことによって、安眠を促すよう支援している。どうしても眠れない人は、お茶を飲んだりお話をしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用や用法、用量について理解している。処方箋をファイルにまとめて誰でも確認できるようにしている。また、服薬時に本人に手渡し、服薬できているかの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、入居者や家族との会話の中で情報を得ている。また、入居時家族が記入した生活歴を活用し、その人らしい役割や喜びのある日々を過ごせるように、ケアに活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの健康状態と希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。本人の希望を少しでも叶えながら、家族との外出や車でのドライブ、犬の散歩、買い物などを行っている。	週3回、食料品、日用品、本などの買い物のほか、散歩にも出かけている。法人内の他施設にも行くことができる。喫茶店や、ドライブをかねた美術館、菖蒲園などにも出かけている。運営推進委員から外出ボランティアの申し出があったが、利用者の希望に沿った支援であるため、タイミングがあわず、利用はできていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない入居者の小遣いに関しては、職員が管理している。所持できる人は、希望に応じて買い物に行き支払いができる楽しみを支援している。		

グループホームやすらぎの家きやま(やすらぎの家きやま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の公衆電話を利用して、家族と連絡している。また、親戚や子どもから手紙やはがきが届き、返事を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としていたホールの改修工事を行い、障子の仕切りができたことで、一人ひとりが自分の居場所を見つけてくつろげている。また、ガラス越しに日光浴しながら、つつい居心地がよいのか居眠りをしている時もある。時には、外にいる犬の様子を見ながら犬と戯れている。	玄関には、季節の花が生けられており、落ち着いた雰囲気を感じることができる。理念や個人情報の保護についての記載も貼られており、支援の方針が訪問された方にもわかるようにしている。また、ホールにはゆったりと過ごせるように工夫されているうえ、障子による仕切りがあったり、別にくつろぐ空間もあり、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。窓が大きく、季節感や生活感が感じとりやすい場の工夫がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を見つけて、共用空間でゆったり生活している。その中で、独りで読書をしていることもあれば、気の合った利用者と会話をしたり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながらダンスや椅子など、使い慣れた馴染みの物を持参していたり、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッド以外は、本人が使い慣れたダンスや椅子、机などを持ってこることができる。置がしかれていたり、家族の写真や作品が飾られていたり、各部屋はその人らしい工夫がされている。昼は部屋で過ごされる方は居らず、ホールでゆったりと過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かして、家事(掃除、洗濯、料理)の手伝いや日常生活を送ってもらい、安全かつできるだけ自立した暮らしができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念に基づき、職員全員が意識し、実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩、近所の地蔵参拝、ホーム外回りの掃除、犬の散歩など、その時々で声をかけあったりすることで日々の交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	希望があれば研修・見学の受け入れを行うなど、認知症についての理解や支援の方法を地域の人々が身近に学べる場として提供することで、地域の高齢者等の暮らしに役立ててもらおうよう努めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、報告や話し合いを通じて、サービスの質の向上に努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点があれば、市の担当者に質問・相談するなど、連絡を密にすることで協力関係を築き、サービスの向上のために取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護において、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連の研修や勉強会に積極的に参加し、防止に努めている。

グループホームやすらぎの家きやま(峠の家きやま)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の権利擁護の必要性を、関係者と話し合い、活用できるよう支援していきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約上の不安や疑問点、起こりうるリスクや緊急時および重度化についての対応、医療連携体制などについて、利用者や家族等には詳しく説明し、理解・納得を得るようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、苦情や要望を入れる箱を設置し、それらの意見を運営に反映するようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、合同ミーティングを持ち、意見や提案を聞く機会や場面を設け、それを反映できるよう努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が、やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設やグループ内外の研修を受ける機会を持ったり、グループ内の研究発表会に参加するなど、職員一人ひとりの質の向上を図れるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動の取り組みに努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どんな時でも、本人が困っていること、不安なこと、要望などを、その人の立場になり、寄り添い、聴くように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会や面会等を通して、近況報告を行ったり、不安なこと、要望等を聞きながら関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族より相談を受けた場合は、医師・看護師などと相談しながら支援を見極め、対応していくよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に寄り添いながら、思いやりを持って接している。食事づくりや作法、昔の歌など、利用者から多くを学んで支えあう関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事摂取量が少なくなった時、好みの食べ物を差し入れしてもらって対応するなど、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出深い場所や馴染みの人との関係が途切れないよう、本人の希望時には会いに行くなどの支援をしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに落ち着ける場所・場面づくりをすることで、支え合えるような支援に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院の入院や、他の施設に移られた場合、そこへ出向くなどして、関係を継続している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に希望・意向を聞いている。また、日々の関わりの中で、家族から情報を得て把握し、職員間で情報を共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に生活歴や暮らし方、生活環境を聞いている。また、日々の関わりの中で家族から情報を得て把握し、職員間で情報を共有している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始前に心身状態や一日の過ごし方などの情報を聞いている。また、日々の関わりの中で、現状を総合的に把握するよう努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日程調整を行い、本人・家族・必要関係者とサービス担当者会議を開き、各々の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、フォーカスチャータリング(記録方式の一つ)を取り入れることにより、その人らしさが見える記録になるようにしている。それにより日々の様子や関わりが介護計画の見直しに活かせるようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、柔軟な支援をしている。家族が宿泊したい時は、本人と一緒に泊まれるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要性に応じて、民生委員や自治会長などと協働しながら支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望を主体としており、受診や通院も本人や家族の希望に応じて対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来た際に気軽に相談したり、気になることがあれば電話にて相談し、診察に来てもらうなど、健康管理や医療連携体制ができています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と連携し、常に情報交換を行っている。また、必要に応じて、往診・訪問看護が受けられるように体制を整えている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携を図りながら支援に取り組んでいる。また、グループホーム独自で看取りに関する指針を作成している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や利用者の急変に備えて、全職員は応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急災害時には、昼夜を問わず、全職員がかけつけ、利用者の安全確保ができるよう、対応方法を身につけると共に、地域との協力体制を築いている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。また、随時職員間で注意やフォローを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の後方から話しかけず、正面から目の高さに合わせて対話している。また、本人のニーズに合わせたコミュニケーションを図るよう心がけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切にし、生活のリズムに合わせたケアを行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、一人ひとりの個性にそった支援をしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが持っている力を活かして、利用者と職員と一緒に料理づくりや片づけをしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、各利用者に応じた支援をしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアをしている。

グループホームやすらぎの家きやま(峠の家きやま)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのトイレサインを把握したうえで、排泄表を作成して、パターン・習慣を活かした介護を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄表を作成し、飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々に応じた便秘の予防に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に日中に入浴を行っているが、入浴時間や回数等は一人ひとりの希望に合わせるよう努力している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体を動かすことによって、安眠を支援している。昼夜逆転にならないよう、日中に居眠りをしている人には声かけをする。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬表を作成することで、用法・容量について理解し、服薬支援や症状の変化の確認に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好に合った楽しみごと、気分転換等の支援をしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの健康状態や希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。

グループホームやすらぎの家きやま(峠の家きやま)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者に関しては、小遣いを職員や家族が管理している。また、希望に応じて買い物に行くなど、お金が使える機会の提供をしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人などからの電話の取り次ぎ、手紙、年賀状など、本人自らがやり取りできるよう支援をしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りつけや、ついたてを利用し、生活感があり、それぞれが居心地よく過ごせる空間をつくるよう工夫している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、家具の配置に気を配り、独りになれたり、気の合う利用者と思いたい思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子などの家具は、馴染みの物を持参してもらい、使い慣れた物や好みの物を活かす工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。